

## 方程式論としての Galois 理論

### (根の置換としての Galois 群)

$f(X) \in K[X]$  : 分離的 (重根を持たない) で  
monic な  $n$  次多項式

$W := \{w \in \bar{K} \mid f(w) = 0\}$  :  $f$  の根全体  
 $=: \{w_1, \dots, w_n\}$

$$f(X) = \prod_{i=1}^n (X - w_i)$$

$f$  の  $K$  上の **Galois 群**  $\text{Gal}(f/K)$  :

“ $f$  の根  $w_i$  達の満たす  $K$  係数の関係式を  
保つような根の置換” 全体の成す群

# 方程式論としての Galois 理論

## (根の置換としての Galois 群)

$R := K[X_1, \dots, X_n]$  :  $n$  変数多項式環

$\varphi : R \longrightarrow \bar{K}$  : 環準同型

$X_i \longmapsto w_i$

$I = I(f/K) := \text{Ker}\varphi$

: “ $f$  の根  $w_i$  達の  $K$  係数の関係式” の ideal

$\text{Gal}(f/K) := \{\sigma \in \mathfrak{S}_n \mid \sigma(I) \subset I\}$

:  $f$  の  $K$  上の **Galois 群**

## 体拡大の Galois 群との関係

$L := \text{Spl}(f/K) = K(W) = K(w_1, \dots, w_n)$   
:  $f$  の  $K$  上の最小分解体

$\text{Gal}(L/K) := \{\sigma : L \rightarrow L \mid K\text{-同型}\}$   
: 体拡大  $L/K$  の **Galois 群**

$\sigma \in \text{Gal}(L/K)$  は根の置換を引き起こす

$$\text{Gal}(L/K) \subset \mathfrak{S}(W) \simeq \mathfrak{S}_n$$

$$\text{Gal}(L/K) = \text{Gal}(f/K)$$

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

$L/K$  : 体の拡大

$$G := \text{Aut}(L/K) = \{\sigma \in \text{Aut}(L) \mid \sigma|_K = \text{id}\}$$

- $H \subset G$  : 部分群に対し、  
 $L^H := \{x \in L \mid \forall \sigma \in H : \sigma(x) = x\}$   
:  $H$  の**固定体 (fixed field)**
- $M : L/K$  の中間体に対し、  
 $\text{Aut}(L/M) = \{\sigma \in G \mid \forall x \in M : \sigma(x) = x\}$   
:  $L$  の  $M$  上の**自己同型群**

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

自明に

$$\text{Aut}(L/L^H) \supset H, \quad L^{\text{Aut}(L/M)} \supset M$$

ここで  $=$  が成り立つか？

一般には成り立たないが、**Galois 拡大**なら OK

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

“Galois 拡大” とは、

“ $\text{Aut}(L/K)$  が充分大きく、  
体拡大  $L/K$  を統制できる拡大”

**Galois 理論の基本定理**

||

中間体と部分群との対応

## 体の拡大の理論としての Galois 理論(復習)

体の有限次拡大  $L/K$  が **Galois 拡大**



$$\#\text{Aut}(L/K) = [L : K]$$



$$L^{\text{Aut}(L/K)} = K$$



$L/K$  : 正規拡大 かつ 分離拡大

この時、 $\text{Aut}(L/K) = \text{Gal}(L/K)$  と書き、

$L/K$  の **Galois 群** と呼ぶ